

## 生物科学学会連合 第8回連絡会議記録

日時： 2002年11月18日(月)午後2時~4時30分  
場所： 学士会分館(東京・本郷)  
出席者： 永田 和宏(世話役, 日本細胞生物学会)  
石和 貞男(日本遺伝学会) 河田 光博(日本解剖学会)  
河野 重行(日本植物学会) 上島 励(日本進化学会)  
小幡 邦彦(日本神経科学学会) 正木 春彦(日本生化学会)  
中根 周歩(日本生態学会) 片山 舒康(日本生物教育学会)  
石渡 信一(日本生物物理学会) 金子 章道(日本生理学会)  
八杉 貞雄(日本動物学会, 日本発生生物学会) 深田 吉孝(日本比較生理生化学会)  
荒木 弘之(日本分子生物学会) 橋本敬太郎(日本薬理学会)  
オブザーバー： 小林 興(日本植物学会, 東京学芸大学)  
(欠席) 日本植物生理学会 日本神経化学会 日本比較内分泌学会 日本免疫学会  
(敬称略, 学会名五十音順)

配布資料： 0. 第8回連絡者名簿(2002.11.18)  
1. 第7回連絡会議記録(案)  
2. 「国際高等シンポジウム『Okazaki Biology Conference(仮称)』説明書」  
3. 「『科研費2002』」および「科学研究費補助金の拡充・改善」  
4. 「『生物I』関連教科書の検定に対する意見書(案)」  
5. 「生命科学の階層性と高校生物の教育課程」

### 議事要旨：

#### 1. 第7回記録の確認(資料1)

原案通り承認した。

#### 2. 国際高等シンポジウム『Okazaki Biology Conference(仮称)』説明(資料2)

基礎生物学研究所の勝木元也先生を中心に、国際高等シンポジウム「Okazaki Biology Conference(仮称)」が計画されており、同研究所の村田紀夫教授から上記シンポジウムの趣旨と概要の説明があった。このシンポジウムは、日本にベースをおいた国際的な交流の場を持つという主旨で、海外で行われているKeystone Symposia, Cold Spring Harbor Meetings and Courses, Gordon Research Conferencesなど、少数の精鋭を集めてテーマを絞った比較的長期にわたる研究会をモデルとしている。予算は参加100人で2,000万円規模、国の助成を期待しており、国への予算要求に際して生物科学学会連合としても賛意を示していただけないかとの要請があった。これに対し、まずは主催者側が要望書の原案を作成し、世話人の永田委員を経由して各加盟学会へ送付し、検討していただくこととなった。

#### 3. 「科学研究費の運用についての意見書」に対する回答(資料3)

先に生物科学学会連合で提出した「科学研究費の運用についての意見書」について、文部科学省研究振興局学術研究助成課長の西阪昇氏、同課企画室長補佐の鈴木達也氏からパンフレット『科研費2002』に基づいて説明があった。委員からは1.「4月~6月のシンポジウムが対象になっていない」、2.「旅費・招待者への謝金も対象になっていない」、3.「大学院生のシンポ

ジウム参加のための旅費・交通費も対象としてほしい」等の意見が出された。1～3への文科省の回答は、1.「研究助成金は会期が終了しているものは対象外である」、2.「研究助成金は申請資格をもっている研究者のための研究経費に対する補助であり、現行法では大学院生は研究支援者として扱われている。研究遂行者として認められていないが、随員扱いにして研究者の申請に含めてもらえれば可」というものであった。

なお、研究助成の審査委員は、これまで総合科学技術会議が学術振興会へ推薦していたが、その方法を見直すことが表明され、プログラムオフィサー（PO）構想が披瀝された。POとは、研究歴のある事務官をさし、役割は研究助成に対するアドバイス、中間評価、事後評価であり、審査を行うことはない、との説明があった。

#### 4. 「教科書検定に関する意見書」の提出について（資料4）

日本植物学会から小林 興氏（東京学芸大学）がオブザーバーとして出席され、意見書（案）の概要説明があった。まもなく「生物II」の検定が終了するとのことで、12月中には文科省へ意見書を提出すべく、各学会から寄せられた意見は片山委員が最終調整をすることとし、意見提出期限は12月10日とした。その後1週間程度で片山委員がまとめ、文科省へ提出することとした。

#### 5. 教科書WGの経過報告（資料5）

正木委員より、前回連絡会議から特に進展がないことが報告された。

#### 6. センター試験出題教科・科目について

前回連絡会議において、平成18年度実施予定の入試センター試験出題教科についての中間まとめに対し、物研連物理教育小委員会の意見書が紹介された。科目のグループ分けに不合理があり、高校での理科の履修のあり方に悪影響を及ぼすとの指摘があった。本件については、各学会に一旦持ち帰り、建議あるときは次回連絡会に提出してもらうこととしたが、各学会からは何も意見が出されなかったため、この件は見送ることとした。

#### 7. 実験動物を巡る問題について（金子委員、日本生理学会）

連合に対して具体的にどのような形で協力要請をするかは未だまとまっていないが、(財)日本学会事務センターの広報誌『スキエンティア』No.22（2002年10月号）に動物実験に関する日本生理学会の考えを短文でまとめ、さらに(財)日本学術協力財団が発行する『学術の動向』2002年9月号に動物実験の問題と現状が特集として組まれているので参照いただきたいとのことであった。具体的な要望がまとまり次第、連合に提出いただくこととした。

#### 8. 世話役について

次期世話役は日本遺伝学会、次期副世話役は日本分子生物学会にお願いする。

以上